

ト、心靈ト相感ズル時其夢有ト云ヘリ、但シ金剛經ニハ、一切有爲法、如夢幻泡影ト説キテ、假事ア
 ダナル、喻ヘニコレ侍レ共、四果ノ聖者、乃至辟支佛マデモ、夢ハアルナレバ、マシテ薄地ノ凡夫、爭
 デカ夢無ラン、心靈ノ感ズル所ナラバ、ナドカ相事モナカラザラン、文句云ク、夢者、從須陀洹至支
 佛、悉ク有夢、唯佛ノミ不夢、無疑無習氣故ニ、不夢、從五事故ニ有夢、以疑心分別覺習、因理事非人來
 相語、因此五事夢ミルト云云、

〔隨意錄一〕或問夢者何由、予田虎曰、周禮占夢、占六夢之吉凶、然人每有不關吉凶之雜夢也、又問、如是
 夢者、由想與、由因與、抑由何理、與、予曰、吾未知何理也、然理之可知者、不可以爲夢也、以理之不可知者、
 乃謂之夢、夢者、嘗也、不明之謂也、

〔周禮註疏二十五〕占夢、掌其歲時觀天地之會、辨陰陽之氣、疏以日月星辰占六夢之吉凶、疏略一

曰正夢、註無所感動、平安自夢、疏二曰噩夢、註杜子春云、噩當爲驚愕之愕、謂驚愕而夢、噩各反、
疏三曰思夢、註覺所思念之而夢、覺苦學反、下四曰寤夢、疏恐覺時道之而夢、寤本又作、寤五
 曰喜夢、註喜悅而夢、疏六曰懼夢、註恐懼而夢、疏

〔圓珠庵雜記〕春の夢は、よくあふよしにあまたよめり、後撰に、ねられぬをしひてわがぬる春のよ
 の夢をうつゝになすよしもがな、

眞淵云、後世む月の初夢とて、こゝろむるも、春の夢はあふとての事か、又初めてみる夢の事を
 いふも、少しさいつころよりいへば、春の夢てふ名のみか、詩にも春夢と作れり、それよりうつ
 れるか、略中

伊勢集に、春のよの夢にあへりとみえつれば思ひたえにし人ぞまたる、兼盛集に、思ひつゝ、ね
 いればみえつ春のよのま。さ。し。き。ゆ。め。にむなしからずな、六帖第五、春のよの夢はわれこそたの
 みしか人の上にて見るがわびしき、西行法師山家集にも、年くれぬ春くべしとは思ひねにまさ

正夢
 虚夢